

# 図書室だより 冬の号 NO.3

R6. 12. 23 七尾高校図書室発行



## 〈R6 年度 青春の読書〉

秋の読書週間（10月28日～11月1日）が行われました。読書週間に合わせて先生方が生徒に薦める本「青春の読書」のコーナーを設置しました。蔵書がない本は購入しましたが、読書週間には間に合わず、12月になってから届いた本もありますので、ぜひ覗いてみてください！！



図書室を使ったディベートの様子 13H



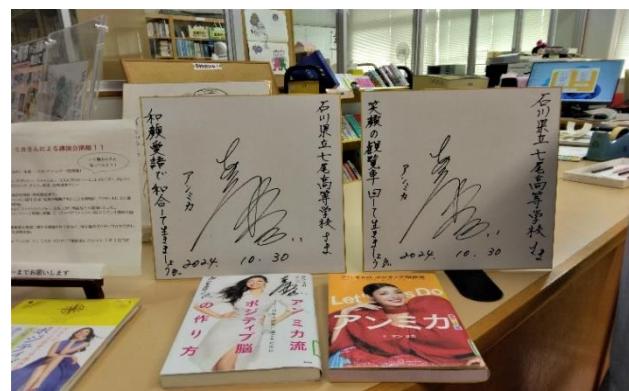
## 〈文法 4 抽クイズ〉

今年の7月から新紙幣が発行されましたね。まだ、あまり流通していないせんが、これから増えていくことだと思います。過去に紙幣になった作家と言えば、1000円札に夏目漱石、2000円札に紫式部、生徒の皆さんもよくご存じである5000円札の樋口一葉がいると思います。そんな中、小説家として有名な夏目漱石ですが、

「草山の重なり合へる小春哉」<sup>かな</sup>

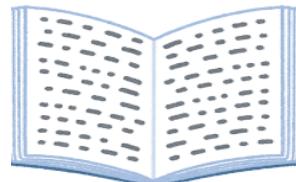
というように、親友である正岡子規に送ったとされる俳句もあり、俳人としての面もあったようです。では、夏目漱石はこの俳句の中で四季のどの季節を詠んだでしょう？

## ① 春 ② 夏 ③ 秋 ④ 冬



アンミカさんのコーナーを設けています。サインを頂いた本も展示中！！

**朝はいつも静かな団  
たちでとても賑わいま**



朝はいつも静かな図書室で本を借りる生徒たちでとても賑わいました。読書週間に限らずいつでも図書室に足を運んでくださいね。

そして、いつも利用してくれている生徒の皆さん、本当にありがとうございます！！

アンミカさんのコーナーを設けています。サインを頂いた本も展示中！！

卷之三 小雪 4. ④ 亂世之小雪

## 小論文特集



国立大の7割、公立大の6割、私立大では医療・看護系を中心に170を超える大学で、小論文や総合問題などの論述式問題が出題されています(一般選抜の場合)。したがって、小論文入試の対策を行えば、受験機会が増えて合格のチャンスも広がります。

(螢雪時代 2025年小論文入試より)

1・2年生の皆さんもこの冬休みの機会に1冊手に取ってみてください!



### 〈一度やってみよう!! 小論文○×チェック〉

小論文○×チェック 論述の基礎体力をクイック診断	
画像をネットに上げる際に説明文をつけられる	
ドラマを見ていてその後の展開に予想がつく	
休日は行動計画を立てたうえで過ごす	
過去3ヶ月以内に本を3冊以上読んだ	
尋ねられたら言葉で道案内をすることが出来る	
便箋2枚以上の手紙を書いたことがある	
映画のあらすじを人に伝えることが出来る	
法律や経済の話題に興味がある	
少子高齢化対策について考えたことがある	
書いた文章を読んで批評してくれる人がいる	

(参考: 螢雪時代 2025年小論文入試)

#### 【○の数=0~3 小論文ビギナー】

文章を書く前から「小論文はニガテ」と思っていないですか? まずは身近な会話に耳を傾けて「何が言いたいのか」を聞き取りましょう。聞いた内容をメモ。とにかく文として書くことが大切です。

#### 【○の数=4~7 小論文チャレンジャー】

とりあえず書くことはあるけど、仕上げに自信がないのでは? まずは文章を基本パターンに沿って書く。つまり、「スタイルを身につける」ことで、論述力がアップします。

#### 【○の数=8~10 小論文マスター】

当日、試験会場での時間不足を心配しているのでは? 同じテーマに対して、自分の反対の立場から文章を書いてみましょう。他の人の立場をすぐに想定することが時間短縮のカギになります。

### 2024年著者別出題回数ランキング

第1位 12回 村上 靖彦 (精神分析学者)  
『ケアとは何か 看護・福祉で大事なこと』 中央公論新社  
『客觀性の落とし穴』 ちくまプリマー新書

第2位 5回 伊藤 亜紗 (美学者)  
『目の見えない人は世界をどう見ているのか』 光文社  
『「利他」とは何か』(編著) 集英社新書  
『手の倫理』 講談社

第3位 4回 外山 滋比古 (英文学者・評論家)  
『知ること、考えること』  
『何のために「学ぶ」のか』(共著) ちくまプリマー新書  
『こうやって、考える。』 PHP研究所  
『思考の整理学』 ちくま文庫  
『知的創造のヒント』 築摩書房



支える営み  
弱さを肯定し、  
「一義」のため  
育児 地域活動  
医療や介護  
よつひい

中公新書 2646

定価924円(10%税込)

分類:衛生学・予防医学 請求記号 (4 9 8 /ム)

皆が避けては通れない「死」。自分や親しい人が苦境に立ったとき、人は「独りでは生きていけない」のである。人間の弱さを前提とし、生を肯定し、支える営みがケアである。

本書では、看護の現象学の第一人者が、当事者やケアワーカーへの聞き取りをもとに、医療行為を超えたところで求められるケアの本質について論じる。育児や地域福祉、貧困対策のあり方にも通底する「当事者主体の支援」とは、〈実践〉のための哲学書。